

天草崎津集落の生活史に関する一考察

熊本大学工学部

学生会員 垂和希

熊本大学政創研

正会員 田中尚人

1. はじめに

天草崎津地区は国選定重要文化的景観の対象地区であり、世界文化遺産登録を推進している「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産としても選ばれている。文化的景観として評価される中、自然環境や歴史に関する調査、研究は数多く存在する。しかしながら、崎津集落での一般的な生活、生業、「暮らし」についての調査、研究は少ない。

本研究では、人々の暮らしを支える産業、特に人々の暮らしの一部とも言える経済活動に着目し、同地における生業及び生活環境の成り立ちとその変化過程を明らかにすることで、天草崎津集落の風土にあった暮らしを理解することを目的とする

2. 崎津集落の生活環境の成り立ち

崎津集落の暮らしを理解するために、はじめに自然環境と歴史を整理した。

(1) 崎津集落の自然環境・歴史

崎津は、羊角湾に面した天然の良港を活かした漁村

集落である。明治から昭和には、近代漁法の導入により、交易港町として発展した海運の拠点でもある。

日本におけるキリスト教の歴史の中でも、弾圧と潜伏を物語る貴重な場所として注目されてきた。また、集落中央にあるカトリック教会の崎津教会をシンボルとし、山と海に囲まれた狭い土地に家屋が密集している特徴的な景観としても評価されてきた。

(2) 崎津集落の現在の概要

崎津は人口 585 人、世帯数 271 世帯であり、15 歳未満 58 人、65 歳以上 235 人という全人口の 40%が高齢者という少子高齢化が進んだ小規模な地区である。

少子高齢化や漁業不振による後継者不在などにより、空き家の増加等の課題が生じており、文化的景観の価値が損なわれる恐れがある。

3. 崎津集落の生活環境の変遷

同集落の戦後 60 年の土地利用、商業形態などの記録を整理することで、生活環境の変遷を把握した。

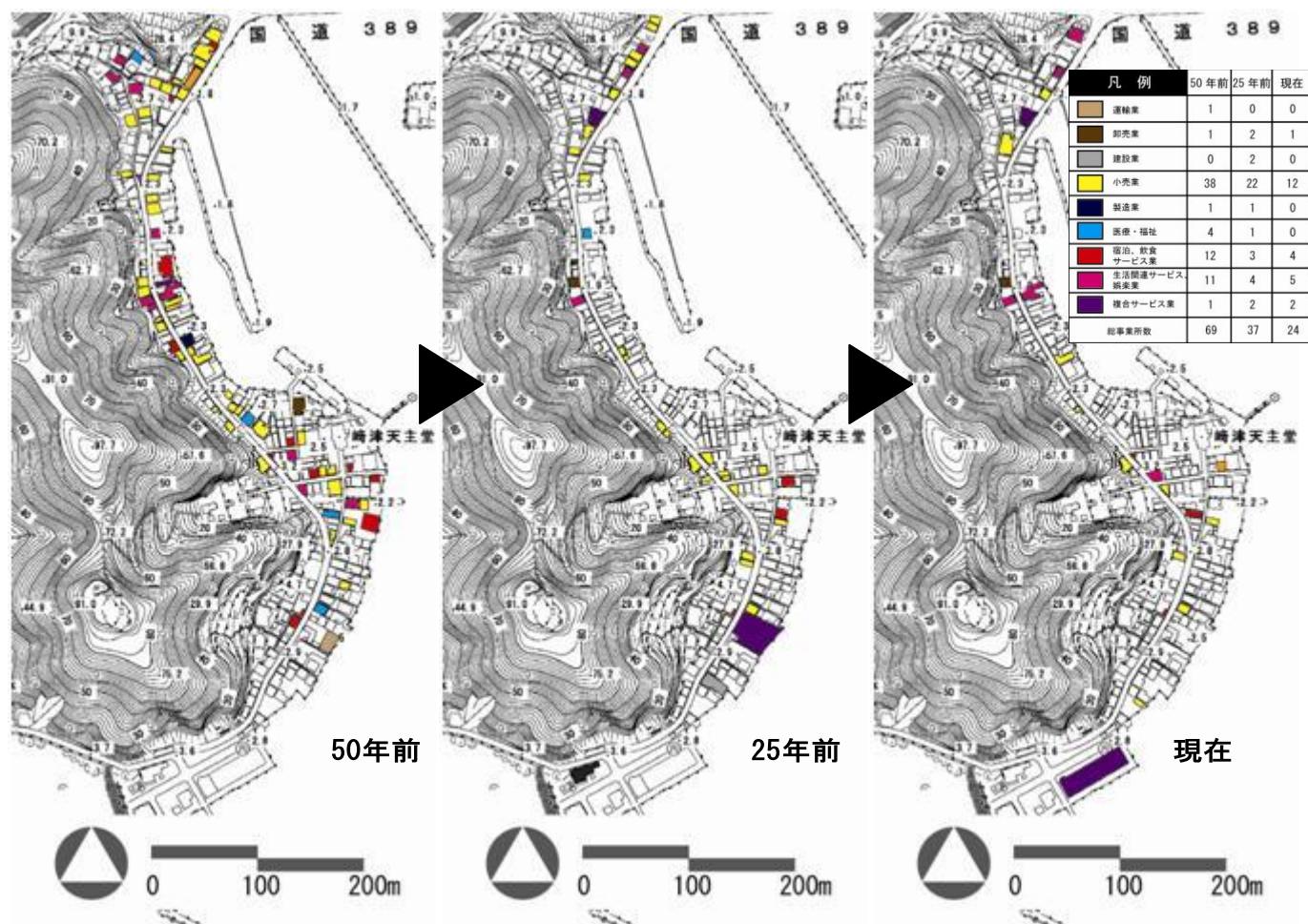


図1 崎津集落の土地利用変遷図

表 1 崎津集落の生業変遷図

西暦(年)	川浦人口	富津人口	崎津人口	漁家数	富津(崎津・今富)	鉱業	漁業
1945	—	—	—	—	富津村富津中学校創立(1947)	尾中義明氏が経営(閉山まで経営にあたる)(旭)(1945) 堀次吉氏が経営(閉山まで経営にあたる)(今)(1947) 今富炭鉱に改名(今)	崎津漁協協同組合設立(1949)
1950	11685	3892	—	—			漁港指定(1952) 九州真珠有限会社設立(1952)
1955	11930	3892	—	—	崎津簡易水道完成(1956)		崎津漁港局部改良第一期工事着手(1959)
1960	14745	—	—	—	県道西海岸線(崎津大江間)開通(1961) 今富簡易水道完成(1963) 苓北町富岡崎津一町田間でバス運行開始(1963)	旭炭鉱閉山(従業員数129名生産高18544t)(1964) 1960年のエネルギー革命により燃料の主役が石炭から石油へと転換され、炭鉱業に終わりを告げた	小川真珠有限会社設立(1960) 河浦町が羊角湾の締切り・淡水化・干拓構想を発表 崎津漁港第二種漁港昇格(1963) 崎津漁港第三次整備計画着手(1963)
1965	11541	—	—	—		今富炭鉱閉山(従業員数135名出炭高3162t)(1965) 羊角湾開発事業の工事開始直後、湾内が濁り漁業に大きな影響を与えた	崎津製氷工場完成(1966) 羊角湾開発事業着手(1968) 干拓建設事業所開設(1968) 崎津漁港第四次整備計画着手(1969) 大江、崎津両漁協が羊角湾の一部消滅補償協定書に調印(1969)
1970	10015	—	—	—	富津町民プール完成(1972)		崎津組合完成(1970) 崎津漁協組合員が漁業権放棄の無効と損害賠償を提訴(1971) 崎津漁港第五次整備計画着手(1973) 崎津漁協組合員が海底汚泥除去と損害賠償を提訴(1973) 整備事業に反対する漁民による海上デモで工事中断(1973) 崎津漁港第六次整備計画着手(1977)
1975	9153	—	—	—			
1980	8521	—	—	—	富津町民野球場完成(1984)		
1985	8206	—	—	—			崎津漁港第八次整備計画着手(1977) 2件の訴訟判決で原告漁民が敗訴(1987) 地元市町の意向を受け、知事が事業再開を要請(1988) 崎津漁港の本格的な整備着工(1988) 六カ年事業 「天草の自然を護る会」が調査報告書をもとめ、再開中止を要請(1989) 漁協と漁業影響補償契約締結が終了(1990) 真珠養殖事業者6社のうち4社と影響補償契約締結(1992) 崎津漁港に製氷結氷冷凍冷蔵施設完成(1993) 7年度から3年間の事業休止決定(1994)
1990	7506	—	—	73	今富・崎津簡易水道が統合し、富津簡易水道になる(1991) 教会の見えるチャペルの鐘展望公園完成(1994)		崎津漁港第九次整備計画着手(1995) 「羊角湾を考える会」発足(1995) アコヤ貝の大量死が始まる(1996) 事業休止決定(1997)
1995	7004	1353	799	76	崎津トンネル・崎津大橋が開通(1996) 一町田富津間の国道改良が完成(1996) 崎津漁港の漁業集落環境整備事業着手(1997)	トラフグ養殖に使われていたホルマリンが原因で、真珠貝の大量死があいつぎ、真珠産業に大きな影響を与えた	
2000	6436	1211	745	61	崎津地区漁業集落排水事業着手(2000) 富津中学校閉校(2002) 崎津地区地域防災対策総合治山事業着手(2004)		崎津漁協(現あまくさ漁協崎津統括支所)の荷崩き施設等が落成(2000) 崎津漁港の整備を完了(2000) 地域の総合的な漁港を目指して 広域漁港整備に着手(2003)
2005	5836	1058	648	52	崎津浄化センター完成(漁業集落排水事業)(2005) 崎津地区の下水道施設が稼働し、下水道の使用(向江区の一部を除く)を開始(2005)	児童数減少による小中学校の閉校により、少子高齢化に拍車をかけた	
2010	5219	942	585	33	富津小学校閉校(2012)		*「—」はデータなし

(1) 調査の概要・結果

本研究では戦後 60 年の土地利用を調査するために、ゼンリン住宅地図'91'06'10、富津地区平面図を用いて、地元の方にヒアリング、現地調査を行った。ヒアリングは平成 26 年 10 月 25 日、26 日、12 月 14 日、15 日、16 日の計 5 回行った。約 50 年前、約 25 年前、現在の土地利用変遷図を図 1 に示す。

(2) 現在までの変化過程に関する分析

総事業所数が 50 年前から現在に至るまで 4 分の 1 以下に減少した。事業所数の減少に伴い、小売業では、豆腐屋やかまぼこ屋など多種にわたる店舗が商店のみを残す形となった。25 年前から現在にかけては、サービス業が増加した。これは、観光地として評価され、観光業が栄え始めたためと考える。

4. 崎津集落の暮らしの変化に関する分析

本章では、3 章の生活環境の変遷を基に、時代背景や生業の変遷を参考にして、同集落での暮らしの変化に関する分析を行った。

(1) 崎津集落の生業の変遷

同集落の生業の変遷を表 1 に示す。人口、漁家数ともに年々大幅な減少傾向にあり、崎津地区の過疎化が進んでいる。原因としては、表 1 で示したとおり、炭鉱業と漁業の衰退があげられる。

(2) 生業の変化と生活環境の変化に関する分析

生業及び土地利用の変遷から、50 年前までは炭鉱業を

中心に栄えており、炭鉱で働く人々が崎津のサービス業や飲食店を利用していたと考えられる。また、漁業は湾内汚泥やホルマリンの影響を受けるまでは現在よりも栄え、収入が今よりも多かったもので、商業施設を利用する人々が多かったのではないかと考えられる。

(3) 崎津集落の風土にあった暮らし

炭鉱業と漁業の 2 大産業の変化に伴って商業施設の数に変化し、2 大産業の繁栄によって、集落は栄え、それらの衰退によって、集落は衰えたことが分かった。

現在、商業施設は減少したが、世界遺産推進の動きに合わせた観光業によるサービス業の増加は見られた。

産業によって人々の暮らしは変化し、今の崎津集落を形成してきたと考える。

5. まとめ

本研究では、崎津集落の風土にあった暮らしの一部を理解することができた。

謝辞：最後に、ヒアリングや土地利用調査に協力して頂いた地域住民の方々、統計データ収集にご協力くださった天草市役所の方々には深く感謝の意を表します。

【参考文献】1) 西日本石炭じん肺訴訟原告団；天草炭鉱・石炭じん肺の闘い，2009 2) 天草市役所；「崎津・今富の文化的景観」整備活用計画書，2014 3) 天草郡河浦町役場，河浦町五十年のあゆみ，町制施行五十周年記，2004 4) 熊本市；熊本市統計書，2010